

障がいがある子どもの自己肯定感を高める集団療育

～構成的グループエンカウンターを通して～

下記のようなことを口にする子どもたちがいませんか？

- やってもうまくできないからやらない…
- わたしみんなから嫌われてるの…
- ぼくなんていなくなってもだれも悲しまないよ…
- 言っても聞いてくれないってわかってる…
- やってもつまんないに決まってる…

とにかく言うこと為すことが後ろ向き。

上記のような発言の直前に共通してくっつくキーワードは『どうせ…』

自己肯定感の低い子どもたちには、このような言動が多くみられます。

障がいがあるがゆえに、学校や社会で他と比べられ、できないところばかりがクローズアップされてしまう現実への子どもたちの悲痛な叫びとサインです。

この研修では、障がい児の専門機関である放課後等デイサービスで、上記のような子どもたちが自己肯定感を高めることができる集団療育のひとつについて学びます。

集団は、他者を見ることによってよりよい行動を学んだり、他者と触れ合うことによって苦手な人間関係を学んだり、他者から認められることによって自分自身を肯定的に感じたりできるなど、大きな効果があります。そして、集団での活動に苦手さをもつ障がいがある子どもたちでも、活動に安心して参加できる枠組みを構成することによって、集団療育がしっかり成立します。これが、今回研修で取り上げる**構成的グループエンカウンター(Structured Group Encounter:SGE)**なのです。

この研修では、この集団療育をうまく活用し、次のような子どもたちの姿を目指します。

- わたしにもいいところが意外とあるんだ！
- 自分のこと、好きだな！
- まずはやってみればできそうな気がする！
- がんばれば、みんなが応援してくれそう！

これらの発言に共通してくっつくキーワードは、『きっと・・・(できる)』

自分自身をしっかり認め、励まし、自分のことが好きになった子どもたちは、今後待ち受けるさまざまな困難にもくじけることなく前向きに取り組んでいくことができることでしょう。

## 自己肯定感を育てる集団療育を提案



### 田中 聡（たなか さとる）

人財育成コンサルタント  
（合同会社サンクスシェア代表社員）

- ・元小学校教諭
- ・障がい福祉サービス支援員
- ・障がい児者相談支援専門員



<https://smappo.jp/yra3m14h>

#### プロフィール

##### 1 小学校教諭 20年

福岡県教育センターにて教職員の研修事業に従事  
小学校新規採用教職員の初任者指導教員を複数回経験  
現職教員中に鳴門教育大学院にて修士（心理学系）を取得  
（修士論文：構成的グループエンカウンターを取り入れた教育プログラム）

##### 2 障がい福祉サービス事業所 10年

知的障がい者施設（社会福祉法人）でのサービス管理責任者・管理者経験  
特別支援学校放課後等支援事業責任者経験  
委託相談支援事業所での相談支援主任コーディネーター経験

##### 3 合同会社サンクスシェア代表社員

指定特定相談支援事業所（障がい児・障がい者）相談支援専門員  
人財育成コンサルタント（放課後等デイサービス 16事業所と契約中）  
強度行動障がい勉強会主催（強度行動障がい者グループホームにて直接支援中）  
福岡福祉向上委員会事務局員  
西日本心理劇学会会員

教師経験 20年を経て、障がい者支援及び障がい者相談員を計 10年経験し、平成 28年 4月、福祉に携わる職員の人財育成の仕組みづくりを目的に合同会社サンクスシェアを起業。教員時代の人の成長に関わる経験に加え、障がい児者支援の直接経験（現在も継続中）、さらには、障がい児者の相談業務に携わる経験をもとに、障がい児の成長支援について、子どもから大人を見通し、総合的にコーディネートするとともに、その支援に携わる福祉職員の人財育成を同時に進めていくスタイルを持ち味とする。

## 研修の主な内容

### 【ポイント① 構成的グループエンカウンターをなぜやるの？】

子どもたちの自己肯定感を高めるにあたり、なぜ構成的グループエンカウンターが有効なのでしょう  
ようか？

- ・ 構成的グループエンカウンターって何？
- ・ 構成的グループエンカウンターのねらいは？
- ・ 構成的グループエンカウンターのプログラム構成は？

などなどを紐解きながら、構成的グループエンカウンターの基本的な考え方を学び、子どもたちの  
心に響く集団療育の原理原則に迫ります。

**Key Word : 構成的**

### 【ポイント② 構成的グループエンカウンターをどのようにやるの？】

構成的グループエンカウンターを実施、進行するのは私たち支援者です。

どんなに選りすぐられたプログラムが用意されていたとしても、それを実施する進行役や補助者  
のやり方が今一步であれば、せっかくの集団療育の効果も半減してしまいます。

ここでは、集団療育を適切に進めていくための留意点を押さえながら、人の育成に携わる支援者  
としての心構えも学びます。

私たち支援者は、放課後等デイサービスを利用する子どもたちにとって、『人』としてのモデル  
であり、私たち支援者のすべての言動は、常に子どもたちから見られています。

構成的グループエンカウンターを実施する進行役は、どのような『人』であるべきな  
のでしょうか。構成的グループエンカウンターの実施手順を学ぶとともに、子どもたちのモデルとしての支  
援者像にも迫ります。

**Key Word : 自己開示能力**

### 【ポイント③ 構成的グループエンカウンターをやってみよう！】

どのようなプログラムが、子どもたちの自己肯定感を高めるのでしょうか？

講師が厳選したいくつかの構成的グループエンカウンターを紹介しながら、参加者のみなさんと  
ともにエクササイズ（実際のプログラム）を実際に展開してみます。

人の行動変容には、感情・思考・行動の3つのスイッチがあると言われますが、子どもの気持ち  
になり替わり、実際に行動してみることによってさまざまな気づきが生まれること  
でしょう。行動のスイッチを押すことにより、感情と思考にも変化が表れることを  
実体験してみましよう。

**Key Word : 自己肯定感**

今回の研修は、理論と実践の2つの側面をバランスよく取り入れて構成しています。

「なぜその支援は必要なんだろう？」「なぜその活動は重要なんだろう？」と、その意味や意義を  
頭で考えるとともに、実際にやってみながら体で考える研修となっているところが  
特長です(^^) /  
ぜひ、動きやすい服装、履き物でご参加ください。日頃のストレス発散もできるかも？（笑）